

令和 6 年 3 月

南田原町・星和台
自治会員の皆様

生駒市建設部事業計画課

奈良交通路線バス「北田原線」の運行継続の決定について

平素は、公共交通行政にご理解を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、令和 4 年 3 月に奈良交通株式会社（以下奈良交通）から廃止・見直しの提案があった標記の路線について、今後も運行が継続されることに決定しました。

これは、地域の皆様の積極的な利用により、バス利用者数が増加傾向にあり、収支改善の兆しが見えてきたことや、利用者・事業者・行政による三者協議等において利用促進など継続して取組みを進めてきたことも、継続決定に大きな後押しとなりました。（※詳しくは裏面の報道資料抜粋をご覧ください。）

路線再編の期限はなくなりましたが、利用者が減少すると再度路線の見直しが必要となるため、持続可能な路線バス運行に向けて、今後も三者協議での話し合いを継続し、三位一体で利用促進に取り組んでいきたいと考えています。

自治会員の皆様におかれましても、地域のバスは「私のバス（マイバス意識）」という思いで、お誘いあわせの上、積極的な利用をお願いすると共に、利用促進の取組みへのご理解とご協力をお願いいたします。

なお、三者協議（利用者、奈良交通、市）の開催についての詳細は、下記 QR コードをご参照ください。



生駒市ホームページ
三者協議（利用者、奈良交通、市）の開催について

【お問い合わせ先】

生駒市 建設部 事業計画課 交通対策係
〒630-0288 生駒市東新町 8-38
TEL 0743-74-1111（内線 2521）
FAX 0743-73-3605
E-mail const-plan@city.ikoma.lg.jp



市内路線バス 4 路線を財政支援 運行継続が決定

生駒市と奈良交通(株)が連携強化に関する協定を締結

令和 4 年 3 月に奈良交通(株)から廃止・見直しの提案があった「ひかりが丘住宅線」「生駒ニュータウン線」など市内バス 4 路線は、今後も運行が継続されることに決定しました。対象路線の年間赤字額約 3,000 万円は、国等の補助制度を最大限活用しながら本市が財政支援します。具体的な支援方法や補填内容については、奈良交通(株)などの関係者と今後検討を進めていく予定です。

これまで対象路線においては、沿線ごとに地域住民・バス事業者・行政の 3 者による協議や利用促進などの取組みに加え、生駒市地域公共交通活性化協議会で運行継続に向けた検討を進めてきました。バスの利用者は増加傾向にあり収支改善の兆しも見えてきましたが、収支均衡が図られるように市が支援し、市民の皆さんの移動の不安を解消することが必要だと判断しました。

本日 3 月 15 日(金)に奈良交通(株)と協定を締結し、より一層連携を強化・協力して持続可能なバスネットワークの形成に取り組んでいきます。

利用者が減少すれば、路線再編について再度議論する必要があるため、引き続きバス 100 円 DAY 等のイベントの実施など利用啓発やそのほかの利用増進策の検討によって、安定した公共交通サービスの提供につとめます。

■ 連携・協定する内容

- (1) 持続可能な市内バスネットワークの確保に関する事
- (2) 路線バス利用促進に関する事
- (3) ドライバー不足の解消に関する事
- (4) バス利用環境の向上に関する事
- (5) (1)～(4)の実施に係る、本市からの財政支援の実施に関する事
- (6) その他、目的の達成に寄与する事項に関する事



生駒市ホームページ
市内路線バス 4 路線を財政支援
運行継続が決定

なぜ今後も 利用促進が 必要？



現行の運行を続けるための条件について

現行の運行を続けるための条件

・北田原線の収支均衡

➡あと1便あたり4.9人/便※の利用増必要

※R4年度実績値

目標人数17.6人/便(R4年度実績12.7人/便)

(R4年度見込み時点の数値は、目標人数17.3人/便(R4年度実績12.1人))

・もしくは市内全体での収支均衡

➡市内全体で約3千万円の赤字

現状での運行期限 令和7年3月(R6. 3月の期限から1年間延長)

前回資料より

【資料2】なぜ今後も利用促進が必要？

令和5年度の市内全体の赤字について

令和5年度第4回生駒市地域公共交通活性化協議会資料より抜粋

No.	路線名	関係市町村	R5年度見込み							
			経常収益	経常経費	損益	収支率	補助金・委託料等		補助金込損益	
			A (千円)	B (千円)	C=A-B (千円)	A/B (%)	D (千円)	交付元	C+D (千円)	うち生駒市 (千円)
1	高の原高山	奈良市、木津川市、精華町	10,445	19,331	△ 8,886	54.0	1,701	国	△ 7,185	△ 3,552
2	富雄庄田	奈良市	45,882	100,132	△ 54,250	45.8	8,597	国、生駒市	△ 45,653	△ 32,070
3	ひかりが丘住宅		82,729	113,712	△ 30,983	72.8			△ 30,983	△ 30,983
4	生駒ニュータウン		55,438	69,694	△ 14,256	79.5			△ 14,256	△ 14,256
5	北田原		45,096	63,647	△ 18,551	70.9			△ 18,551	△ 18,551
その他 12路線			1,547,609	1,385,766	161,843	111.7			161,843	65,052
合計			1,787,199	1,752,282	34,917	102.0	10,298		45,215	△ 34,360

※高の原高山線は、令和5年10月路線廃止

△30,808千円

表のうち、高の原高山線については令和5年10月に路線廃止のため、それをのぞくと

➡市内全体で約3千万円の赤字

検討中の財政支援策について

令和5年度第4回生駒市地域公共交通活性化協議会資料より抜粋

No.	路線名	関係市町村	R5年度見込み							
			経常収益	経常経費	損益	収支率	補助金・委託料等		補助金込損益	
			A (千円)	B (千円)	C=A-B (千円)	A/B (%)	D (千円)	交付元	C+D (千円)	うち生駒市 (千円)
1	高の原高山	奈良市、木津川市、精華町	10,445	19,331	△ 8,886	54.0	1,701	国	△ 7,185	△ 3,552
2	富雄庄田	奈良市	45,882	100,132	△ 54,250	45.8	8,597	国、生駒市	△ 45,653	△ 32,070
3	ひかりが丘住宅		82,729	113,712	△ 30,983	72.8			△ 30,983	△ 30,983
4	生駒ニュータウン		55,438	69,694	△ 14,256	79.5			△ 14,256	△ 14,256
5	北田原		45,096	63,647	△ 18,551	70.9			△ 18,551	△ 18,551
その他 12路線			1,547,609	1,385,766	161,843	111.7			161,843	65,052
合計			1,787,199	1,752,282	34,917	102.0	10,298		45,215	△ 34,360

※高の原高山線は、令和5年10月路線廃止

北生駒～傍示間の廃止案が提出されていた□内の富雄庄田線について、

国のフィーダー補助などの支援制度を活用できるように再編し、令和7年10月から財政支援を検討。

➡富雄庄田線に約3千万円の財政支援

なぜ富雄庄田線にだけ財政支援？

- ⇒ ・国の補助対象路線で、市の支援は協調補助となり、単独補助より負担軽減。
・そもそもの再編案が、北生駒以北の路線廃止であり、市民生活に与える影響が極めて大。

市内収支均衡について

No.	路線名	関係市町村	R5年度見込み		うち生駒市 (千円)
			補助金込損益		
			C+D (千円)	うち生駒市 (千円)	
1	高の原高山	奈良市、木津川市、精華町	△ 7,185	△ 3,552	
2	富雄庄田	奈良市	△ 45,653	△ 32,070	△ 2,070
3	ひかりが丘住宅		△ 30,983	△ 30,983	△ 30,983
4	生駒ニュータウン		△ 14,256	△ 14,256	△ 14,256
5	北田原		△ 18,551	△ 18,551	△ 18,551
その他 12路線			161,843	65,052	65,052
	合計		45,215	△ 34,360	△ 808

市内全体の赤字約3千万円に対し、富雄庄田線に約3千万円の財政支援を行うことで、おおよその市内収支均衡を達成。

ポイント 市内全体の赤字額分を財政支援するわけではない。

➡利用者減で赤字が増えると、また再編の議論に

なぜ今後も利用促進が必要？

➡バス路線の運行を継続していくため

(協議の期限がなくなっただけで、利用が少なければ見直しが必要になることは今後も変わらない)

今後も継続する取組みについて

利用者(地域)、奈良交通、市が三位一体で利用促進に取り組む。

主 体	内 容
利用者(地域)	三者協議を通じて、地域が主体となった利用促進を実施など
奈良交通	市や利用者の取組みへの協調、CI-CA plusの利用促進など
市	<u>バス運賃100円DAYの開催継続</u> 、市内交通マップの作成など



8月3日(土・どんどこまつり開催日)にバス運賃100円DAY開催決定！ 秋開催も計画中

北田原線

第1回 利用促進に向けた三者協議 ニュース

このニュースは、北田原線を今後も持続可能な路線とすることを目標に、「住民」「奈良交通」「生駒市」の三者で利用促進に向けた話し合いを行った内容をお知らせするものです。

北田原線の初回となる三者協議として、次回以降、利用促進について話し合っていくため、まずは現状の共有と疑問点の解消、利用促進の事例紹介の機会としました。開催にあたり、事前に自治会回覧を通じて、利用促進の協力者募集の呼びかけを行い、参加意向を示された方々がお集まりになりました。説明に応じて、質問・回答を三者で行い、理解を深めながら、今後に向けた意見交換を行いました。

【開催概要】

日 時: 令和6年2月21日(水)

19:00~20:30

場 所: 南田原町集会所

参加者: 28名(北田原町8名、南田原町16名、星和台4名)

【今回の話題】

1. 北田原線の現状と今後の方向性
2. 取組み事例紹介
3. 今後の予定



当日の様子

1. 北田原線の現状と今後の方向性

奈良交通(株)が運行する北田原線(右図)は、利用者が少ないため、主に通勤・通学時間帯を減便する再編案が市に提出されています。現在の運行を続けるためには、市内全体もしくは北田原線で収支が釣り合う必要があり、住民、事業者、行政が協力し、利用促進に取り組んでいく必要があります。

目 標

・【市内全体】年間約3千万円の収入増

➡市民全員が年に1回多くバスを利用すれば達成

・【北田原線】1便当たり4.9人の利用増

➡沿線住民1人当たり月 2.8 回多くバスに乗れば達成

どちらか
が必要

まずは一人一人が利用を増やし、周囲に広げていくことが大切と共有しました。



2. 取組み事例紹介

市内や他市町村での利用促進の取組み事例を紹介しました。

バス運賃 100円DAY (1乗車)
小学生以下は **無料** ワンコイン!

おでかけしよう
路線バスで

2023年 8月3日(木)~5日(土)

観覧条件
現金のお支払いのみ対象
小学生の方は運賃をお支払いしない。乗車券に「小学生」と記載されている。乗車券はバスに投入し、乗車を完了するまで保持する。
※乗車券はバスに投入し、乗車を完了するまで保持する。
※乗車券はバスに投入し、乗車を完了するまで保持する。

対象路線 生駒市内を走る路線バス
※生駒市内を走る路線バス(生駒市バス)のみ対象。生駒市バス以外の路線バス(奈良交通バス)は対象外です。
※乗車券はバスに投入し、乗車を完了するまで保持する。
※乗車券はバスに投入し、乗車を完了するまで保持する。

R5年8月【生駒市の取組み】
「バス運賃100円DAY」

乗って頂こう! バス路線
乗って頂こう! バス路線

バスに乗ろうポスターコンクール

作品大募集
令和6年 1月9日(火)まで

スチール賞品があります

部門 以下の3部門で募集しています。
(市内にお住まいの小・中学生)
小学生低学年部門 (1年生~3年生)
小学生高学年部門 (4年生~6年生)
中学生部門

テーマ 「いそかわ、いそかわ」の「のってわくわくするバス」
小学生高学年・中学生部門 / 「バスと共にある暮らし」

R5年12月~【他路線三者協議の取組み】
「バスに乗ろうポスターコンクール」

鹿ノ台コミバスニュース No.3

**「スーパーいそかわ」協賛
コミバスに乗って、いそかわの
買い物券をゲットしよう!**

キャンペーン期間中にコミバスを利用して、
「いそかわ」で10回乗り降りすると、
「いそかわ」から提供いただいた500円買い物券を
ゲットできます!

★買い物補助券:
「いそかわ」で乗り降りする際に、1回につき1枚
買い物補助券をバスの運転手にお渡しします。

★買い物券の提供:
買い物補助券が10枚貯まると、いそかわの店頭で500円の買い物券
と交換します。

★キャンペーン期間: 2022年12月26日(月)~2023年3月31日(金)

★買い物券有効期間: 2023年1月4日(水)~2023年4月30日(日)

R4年12月~【鹿ノ台自治連合会の取組み】
「鹿ノ台線スーパーいそかわ買い物補助券」

3. 三者協議の中で出た主な意見

- 意見 バスの運賃が上がり、コロナ禍も落ち着き、観光客も増えている。それでも減便を行う必要があるのか。
- 回答 運賃改定は収支改善ではなく、運転者不足の解消に向けた待遇改善が主な目的。コロナ禍から回復したといってもコロナ禍前と比べると9割程度の回復に留まる。北田原線の赤字は大きい、市全体で収支が釣り合えば路線維持は可能。【奈良交通(株)】
- 意見 通勤・通学の時間帯の減便は影響が大きい。減便するにしてもその時間帯は避けてほしい。
- 回答 朝夕の通勤・通学の時間帯が、バスと運転者の一番必要な時間帯で、収支改善を図るためには、その時間帯の減便が必要。【奈良交通(株)】
朝夕の減便を防ぐために、通勤・通学利用者をターゲットにした取組みが効果的ではないか。【生駒市】
- 意見 道が狭いなどの問題があるのかもしれないが、もっと地域を幅広くカバーするようバスを運行してほしい。減便だけでは不便になるだけなので、運行ルート工夫して利便性を上げることも検討してほしい。
- 回答 新たな需要の掘り起こしについては検討が必要であると認識しているが、路線を維持するだけの利用を確保するためには、多くの利用目的が集中する駅を中心とした路線を考えることが必要であることをご理解いただきたい。【奈良交通(株)】
- 意見 利用促進を進めていくにあたり、事例を示してもらわなければ取り組んでいくことが難しい。運賃改定で収支状況が変化しているはずなので、最新の数字がわかり次第教えてほしい。
- 回答 令和6年2月に運賃改定した直後のため、まだ実態はつかめていない。数字がわかれば共有する。【生駒市】
※利用促進の事例は、一番下の二次元コードから生駒市 HP の「第1回北田原線三者協議資料」をご参照ください。
- 意見 再編案の実施は令和7年3月まで延期となっているが、それに向けたスケジュールを示してほしい。また、三者協議に参加できない人の意見も、次回までに持ち寄る方法(ポストイト配布など)を検討してほしい。利用促進策として、バスへの自転車持ち込みを可能にするのが効果的だと考える。
- 回答 ・再編案について、奈良交通(株)も利用者に影響のする減便を避けたいという思いは同じなので、まずはこの三者協議で取組みを検討、実施し、利用者増加の兆しを示すことが大切。
・バスへの自転車持ち込みについて、意見として提案すれば事業者の取組みとして検討いただけるはず。提案を実現いただいた事例として、別路線の三者協議の取組みである「バスに乗ろうポスターコンクール」では、奈良交通(株)の協力で、最優秀作品3枚をバスにラッピングしていただける予定。
・参加できない方の意見は、ぜひ地域の皆さんで集めていただき、次回以降に持ち寄ってほしい。【生駒市】
- 意見 若い世代をターゲットにした取組みとして、動画配信サイトの活用も考えられるのでは。
- 回答 若い世代も含めて、色々な意見を集めて、今後の三者協議でより良い取組みとしてブラッシュアップしていければと考えている。【生駒市】

4. 今後の予定

利用促進のアイデアや協力者の集まり状況を確認しながら、第2回北田原線三者協議の開催準備を進め、次回以降は、具体的な利用促進の取組みを検討・実施していきます。

5. 利用促進のアイデア・協力者の募集

今後利用促進の取組みを検討・実行していくためには、今回お集まりいただいた方々に加え、さらに地域が丸となって取組みを進めることが必要です。利用促進のアイデアをお持ちの方、「こんなお手伝いならできる」という方は、ぜひ次回以降の三者協議にご参加ください。三者協議への参加が叶わない方は、地域の方や、生駒市の下記連絡先までご意見やアイデアをお知らせください。

